特別支援教育通信 WITH

No.71

2024．1．19（金）

北海道東川養護学校　子供支援部
http://www.higashikawayougo.hokkaido-c.ed.jp/
e-mail:higashikawayougo-z1@hokkaido-c.ed.jp

こんにちは、東川養護学校子供支援部です。年が明け、2024年になりました。今年もよろしくお願いいたします。本校は 18 日に始業式があり、３学期が始まりました。子ども達は元気に登校し、「〇〇したよ」「〇〇行ってきた」など、冬休みの思い出をたくさん話していました。いちばん短く、あっというまに終わってしまう３学期ですが、１年のまとめの大切な時期でもあります。忙しい日々が続きますが、子ども達も先生方も体調に気を付けながら過ごしていきましょう。

～特別支援教育コーディネーターとは？～

＆パートナー・ティーチャー派遣事業の様子紹介

各学校に配置されている『特別支援教育コーディネーター』とは、校長から指名され、各学校における特別支援教育の推進のため、主に、**校内委員会・校内研修の企画・運営、関係諸機関・学校との連絡・調整、保護者からの相談窓口**などの役割を担うこと、とされています。【特別支援教育の推進について（通知）　文部科学省　平成 19 年】

具体的には…

特別支援学校の Co に求められる役割

①学校内の関係者や関係機関との連携
②保護者の相談窓口
③地域内の小・中学校への支援
④地域内の特別支援教育の核として
関係機関との密な連絡調整

小・中・高校の Co に求められる役割

①校内の教員の相談窓口
②校内外の関係者との連絡・調整
③地域の関係機関とのネットワークづくり
④保護者の相談窓口
⑤教育的な支援
（校内委員会やケース検討など）

③④のひとつとして…
パートナー・ティーチャー派遣事業や、たいせつネット訪問相談で、地域の幼稚園や小中学校などを訪問しています。私たちが学校等へ訪問した際、どのような流れで相談が行われているのか、どんなことをしているのかを紹介します！

～〇〇小学校へ PT 訪問をした１日～

中休み頃	**〇〇小学校到着、挨拶** **打ち合わせ**（事前にいただいた相談シートをもとに話をします）
３～４校時	**授業の様子観察**
給食・昼休み	**子どもたちと一緒に給食・様子観察**
５校時	**授業の様子観察**
放課後	**相談**（担任やコーディネーターの先生、支援に関わる先生と話をします。（管理職や校内の先生方も入ることがあります。））
終了	

パートナー・ティーチャー派遣事業やたいせつネットで、先生方と話をした内容や、お子さんに実践してみて効果的だった支援などを、関わる先生だけではなく、ぜひ学校全体に周知してください。また、機会がありましたら、訪問後から成長したお子さんの様子や、「こんな支援が効果的だった！」など、私たちにも聞かせていただけると嬉しいです。今後も、担任やコーディネーターだけでなく、みんなでお子さんの支援について考えていきましょう！

叱らずほめて伸ばす　ポジティブな特別支援教育

訪問事業の中で、「ほめるタイミング」や「効果的なほめ方」について多くの先生と話す機会が多かったです。

今回は、『叱らずほめて伸ばす　ポジティブな特別支援教育』の本を紹介しながら、「ほめる」について考えていければと思います。書籍では、応用行動分析（ABA）の視点を用いたポジティブ行動支援（PBS）についても触れていますので、ぜひ参考にしてみてください。

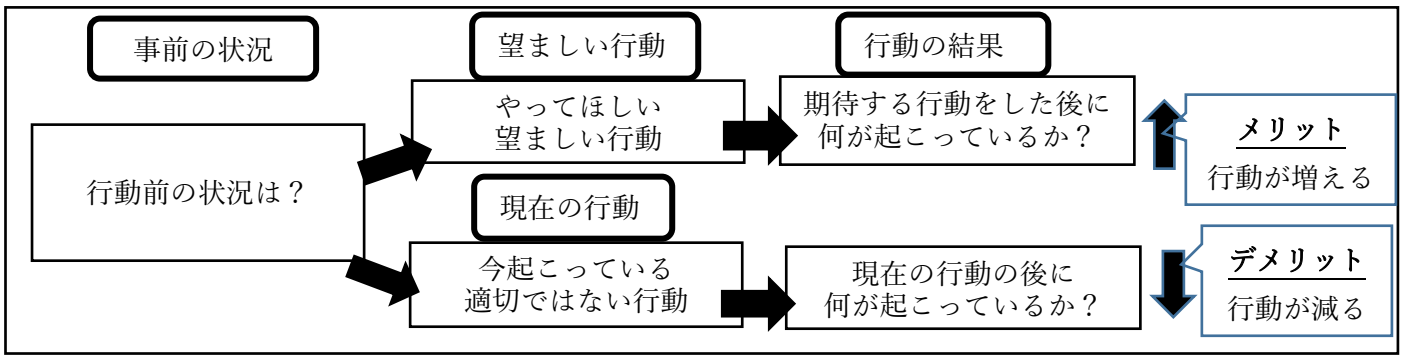
高津梓著
明治図書

先生方の悩み：「何度注意しても、問題行動を繰り返す」「ほめるポイントが見つからない。」

⇒行動を繰り返すということは、行動をすることでメリットがあるから繰り返すと思われます。褒めることで望ましい行動が増えていたら、そのほめ方は行動を増やすのに効果的であると考えます。一方、叱っているつもりでも、現在の行動が減らない（または増えている）ときは、叱ることが子どもにとってメリットとなっている可能性があります。

そのような時は応用行動分析（ABA）の視点を用いた下記の図を参考にしながら、行動の「事前の状況」と「行動の結果」を整理し、「なぜそのように行動するのか？」を考えてみましょう。望ましい行動を行った結果、メリットがあると望ましい行動が増えていきます。そのメリットこそが、教師が子どもをほめるタイミングであり、ほめるポイントとなります。

○応用行動分析の視点を用いた行動の整理



○ポジティブ行動支援と効果的なほめ方

ポジティブ行動支援（PBS）とは、本人や周囲の人々などの状況を分析し、前向きに教育的かつ予防的に支援することです。指導の中で、「望ましい行動」よりも「望ましくない行動」が気になってしまいがちです。ですが、「望ましい行動」に注目し増やしていくことで、「望ましくない行動」が少なくなると考えます。そのためには、望ましい行動をした後に子どもにメリットとなるような、効果的なほめ方が大切になります。効果的なほめ方は、子ども達一人一人によって違います。以下の効果的なほめ方を参考にしてみてください。

○効果的なほめ方のポイント

①**すぐにほめる**：望ましい行動から５秒以内に褒めることが最も効果的だと言われています。
②**行動をほめる**：「すごいね」だけでなく、「姿勢がまっすぐだね」と子どもの行動を言葉で返しましょう。
③**視覚的にほめる**：シールを貼る、ポイントを貯めるなど言葉だけでなく目に見える形で褒めることも効果的です。「ほめる」を見えるようにすることで、「ほめる」の振り返りもできます。
④**細かくほめる**：望ましい行動をやろうとしたとき、やっているとき、できたときなど過程も含めてスモールステップでほめていきましょう。
⑤**みんなでほめる**：担任の先生だけでなく、他の先生、友達、保護者など多くの人からほめられることで、ほめられる効果は、高まっていきます。